

公益財団法人 大隅基礎科学創成財団

第7期（2023年度）事業報告

（2023年8月1日から2024年7月31日）

報告内容

I. 事業の実施状況

1. 基礎研究の助成事業 2
2. 研究者と社会との新たな連携を構築する事業 3

II. 管理業務

1. 財団の体制整備に関する事項 5
2. 理事会及び評議員会の開催 5
3. 選考委員会の開催 6
4. 寄付・会員の状況 7
5. 広報活動 7

公益財団法人 大隅基礎科学創成財団
第 7 期（2023 年度）事業報告
（2023 年 8 月 1 日から 2024 年 7 月 31 日）

当財団は、日本社会の科学基盤の発展に寄与することを目的として、2017 年 8 月 9 日に一般財団法人として創設、2018 年 8 月 1 日に公益財団法人に認定された。

第 7 期は前期に引き続き、基礎研究の助成事業及び研究者と社会との新たな連携構築事業の 2 つを柱として活動した。研究助成への応募総数は 150 件を超え、前期と同規模の助成を行った。研究者と社会との新たな連携構築事業については、創発セミナーはその目的に応じてオンラインと対面で 8 回ほど開催した。微生物機能探究コンソーシアムは、対面開催が多くなったことで会員の交流が深まり、活動の幅も広がった。

管理業務においても、理事会や評議員会などをオンラインも活用して開催したことで多数の役員の貴重な意見を得ることができた。

第 7 期の事業の実施状況、及び管理業務について報告する。

I. 事業の実施状況

1. 基礎研究の助成事業

第 7 期研究助成は、2023 年 5 月 8 日～7 月 3 日の期間に公募を行った。基礎科学（一般）134 件、基礎科学（酵母）23 件の応募があり、選考委員による書類審査を行い、選考委員会を開催して厳正に審査し採択候補を選定した。2023 年 9 月 26 日の理事会で承認された第 7 期採択課題の件数と金額を過去の実績とともに表 1 に示す。第 7 期の基礎科学（一般）及び基礎科学（酵母）の研究助成対象者と研究課題はそれぞれ表 2-1、表 2-2 に示す。

表 1. 研究助成の採択件数と採択金額 (金額単位：千円)

	基礎科学（酵母）		基礎科学（一般）		計	
	採択件数	採択金額	採択件数	採択金額	採択件数	採択金額
第 1 期	4	10,000	-	-	4	10,000
第 2 期	3	12,000	9	32,700	12	44,700
第 3 期	3	12,000	8	48,000	11	60,000
第 4 期	3	12,000	9	48,000	12	60,000
第 5 期	3	12,000	10	48,000	13	60,000
第 6 期	3	12,000	8	48,000	11	60,000
第 7 期	3	12,000	8	48,000	11	60,000
計	22	82,000	52	272,700	74	354,700

表 2-1. 第 7 期 基礎科学（一般）研究助成対象者及び研究課題 (五十音順)

氏名	所属	研究課題
青木 考	大阪公立大学	茎寄生植物アメリカネナシカズラの吸器形成開始における接触刺激受容機構
大久保奈弥	東京経済大学	サンゴの一種をサンゴのモデル実験動物にするための生活史の解明とゲノム解析
大瀧 丈二	琉球大学	力学的形成体（メカニカル・オーガナイザー）の解明：チョウの色模様形成のメカニズムを探る
小柳 光正	大阪公立大学	原始的な多細胞動物・板形動物に着目した動物の光受容システムの起源の解明
戸谷 美夏	早稲田大学	卵母細胞と母体のコミュニケーションを橋渡しする微小管の機能
福田 七穂	新潟大学	mRNA の非翻訳領域が担う遺伝子制御の機構と生理的役割
水多 陽子	名古屋大学	植物の一对一受精を制御する雌雄細胞間シグナル伝達機構の解明
山岡 尚平	京都大学	花粉の生殖細胞分化と胞子非対称分裂の分子機構の解析

表 2-2. 第 7 期 基礎科学（酵母）研究助成対象者及び研究課題 (五十音順)

氏名	所属	研究課題
中村 太郎	大阪公立大学	分裂酵母胞子の形作りの分子メカニズム
野田 健司	大阪大学	生体分子監視機構の実相
福田 智行	新潟大学	脂質膜リモデリング因子によるオルガネラの動態と機能の制御

2023 年 12 月 19 日に対面とオンラインのハイブリッド形式にて研究助成贈呈式を行い、理事長より助成対象者に贈呈書が授与された。基礎科学（酵母）の助成対象者には、併せて大隅基礎科学創成財団酵母コンソーシアムフェローの称号が授与された。

酵母コンソーシアムフェローは共通の Slack チャンネルで、セミナーのテーマや課題について情報交換を行い、Zoom でのオンライン会議を 2 回開催した。

第 8 期研究助成は、2024 年 5 月 7 日～6 月 30 日の期間に公募を行い、基礎科学（一般）170 件、基礎科学（酵母）31 件の応募を受け付け、選考を開始した。

2. 研究者と社会との新たな連携を構築する事業

(1) 創発セミナー

財団の活動に賛同する基礎研究者と企業の研究者等が自由に意見を交わし、基礎科

学研究分野と産業界の新しい協力関係を構築する場として創発セミナーを年間 8 回開催した(表 3)。8 回中 4 回はオンライン開催とし、個人の支援者にも拡大して開催案内を出した。2023 年 11 月の酵母コンソーシアムと 12 月の研究助成贈呈式は会場参加とオンラインのハイブリッド形式で開催し、2024 年 4 月のアドバイザー会議と 7 月の酵母コンソーシアム懇話会は対面で開催した。

表 3. 第 7 期創発セミナー

回	日程	場所	テーマ (演者)	参加者数 (人)
1	2023 年 10 月 3 日 (火)	オンライン	生化学に魅せられた 50 年 －豚の肝臓から細胞の死 (大阪大学特任教授・筑波大学教授 長田重一 氏)	90
2	11 月 22 日 (水)	ハイブリッド 東京工業大学 すずかけ台キ ャンパス	[酵母コンソーシアム] ビール業界における酵母研究の課題	会場参 加 18、 オンラ イン 80
3	12 月 19 日 (火)	ハイブリッド 東京工業大学 すずかけ台キ ャンパス	[研究助成贈呈式] 柔らかい脳と硬い脳の不思議 (東京大学教授・東京大学ニューロイ ンテリジェンス国際研究機構副機構長 榎本 和生氏)	会場参 加 20、 オンラ イン 80
4	2024 年 2 月 20 日 (火)	オンライン	植物を支える微生物と共生 (理化学研究所チームリーダー 林 誠 氏、東京大学准教授 晝間敬 氏)	79
5	4 月 3 日 (水)	学士会館 (東京・神 田)	[アドバイザー会議] アカデミアと企業の協力による 日本の研究力強化のために	44
6	5 月 10 日 (火)	オンライン	生命のもつ最小モーターの不思議 －細菌が泳ぐ仕組み－ (大阪大学准教授 南野 徹 氏、名古 屋大学研究員 本間道夫 氏)	110
7	7 月 4 日 (木)	オンライン	ここまで進んだ細胞内可視化 (理化学研究所チームリーダー・光量 子工学研究センターチームリーダー 宮脇敦史 氏)	262
8	7 月 9 日 (火)	麒麟ホール ディングス株 式会社 横浜工 場	[酵母コンソーシアム懇話会]	25

(2) 市民講座

市民講座は一般市民及び学生に基礎科学の面白さや大切さを理解してもらい、科学の振興を支援する文化を醸成すること及び地域社会への貢献を目的としている。

今期は2023 年 8 月 26 日 (土) 「生物はなぜ死ぬのか」をテーマにオンライン

で開催した。全国から350人が参加し、理事長の挨拶の後、小林武彦氏（東京大学教授）が講演を行い、活発な質疑も行われ盛況のうちに閉会した。

(3) 次世代を担う小中高生と研究者のふれ合いの集い

次世代を担う人材を育てるために、小中高生が最先端の科学に触れ、科学者と交流する場として、『小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集い』を開催した。第8回は2024年1月21日（日）に、九州大学医学部百年講堂（福岡県福岡市）で開催し、331名が参加した。澤進一郎氏（熊本大学教授）の講演「植物と動物の関係性～植物寄生性線虫から学ぶ～」、竹川薫氏（九州大学教授）の講演「糖質を介した生物の生存戦略と私たちの健康」の後、「大隅先生への質問コーナー」に入り、小、中、高校生からの質問に対して本財団理事長の大隅良典が回答した。その後、参加者は、高校・大学並びに企業等が出展した科学体験ブースに移動して、実験・観察などの科学体験を楽しんだ。

(4) 微生物機能探究コンソーシアム（略称、微生物コンソーシアム）

微生物コンソーシアムは、アカデミアと企業が連携して微生物学の発展を図ることを目的として、2020年12月に発足した。2023年度は、活動の4年目として、グループごとに定例会を年6回、全グループ合同で開催する全体会を対面で3回開催し、微生物学をテーマにした研究紹介の後、議論を行った。活動には参加企業からの会費を充てた。

コンソーシアム運営に関する事項を審議するために、財団理事、グループリーダー及び企業からの委員、計12名で構成される運営委員会を置き、審議結果は財団の理事会に上申した。微生物コンソーシアムの活動が契機となった国際標準のプラスミドDB構築の活動を推進した。

(5) 企業等の課題解決に向けた相談対応

本年度は実施なし。

II. 管理業務

1. 財団の体制に関する事項

2023年10月18日の第6回定時評議員会において承認された2022年度事業報告及び計算書類等の定期提出書類、及び2024年7月2日開催の理事会において承認された2024年度事業計画及び収支予算に基づく事業計画に係る定期提出書類を内閣府に提出し、財団のホームページに掲載した。

2. 理事会及び評議員会の開催

(1) 第1回理事会（2023年9月26日）（オンライン）

第1号議案 第6期（2022年度）事業報告・計算書類の承認の件

第2号議案 第7期研究助成、決定の件

- 第3号議案 理事候補者、選任の件
- 第4号議案 第6回定時評議員会招集の決定の件

(2) 第6回定時評議員会（2023年10月18日）（会場:東京工業大学すずかけ台キャンパス）

- 第1号議案 第6期（2022年度）事業報告・計算書類の承認の件
- 第2号議案 理事の任期満了に伴う選任の件

(3) 第2回理事会（2023年10月27日）（みなし決議）

- 第1号議案 代表理事の選定の件
- 第2号議案 業務執行理事（常勤）1名の選定の件
- 第3号議案 業務執行理事（常勤）1名の選定の件
- 第4号議案 業務執行理事（常勤）1名の選定の件

(4) 第3回理事会（2024年3月15日）（オンライン）

- 第1号議案 次期選考委員承認の件
- 第2号議案 『電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程』制定案の承認の件
- 第3号議案 『謝金規程』改定案の承認の件

(5) 第4回理事会（2024年7月2日）（オンライン）

- 第1号議案 第8期（2024年度）事業計画書及び収支予算書等の承認の件
- 第2号議案 創発セミナーに関する規程（案）の承認について
- 第3号議案 市民講座に関する規程（案）の承認について

(6) 第5回理事会（2024年7月12日）（みなし決議）

- 第1号議案 選考委員の選任の件

3. 選考委員会の開催

基礎科学（一般）

第1回選考委員会（2023年8月25日）オンライン開催

応募 134名について、選考委員の書面審査の結果をもとに議論し、採択候補者を16名に絞った。

第2回選考委員会（2023年9月13日）

会場：東京工業大学すずかけ台キャンパス

第1回選考委員会で選ばれた16名について、選考委員全員の二次評価結果をもとに審議し8名を採択候補、3名を補欠候補とし、最終的に選考委員長と理事長が研究費獲得状況や研究費充足率などを考慮に入れて決定することとした。9月25日、委員長と理事長が協議し、採択候補者8名、補欠候補者3名を確定し助成金額を決定した。

理事会（2023年9月26日）オンライン開催

理事会において8名の採択候補者が承認され、採択候補が同様の研究課題で他の高額の研究助成に採択された場合は、補欠を繰り上げることが承認された。

基礎科学（酵母）

第1回選考委員会（2023年8月21日） オンライン開催

応募23件について各委員による採点順位を元に意見交換を行い、各委員からの評価、意見を詳細に検討、議論して上位候補者5名を選抜、仮順位をつけ第一次選考結果とした。

第2回選考委員会（2023年9月8日）

会場：東京工業大学すずかけ台キャンパス

一次選考の結果をもとに議論し、採択候補者3名、補欠候補者2名を確定し、助成金額を決定した。

理事会（2023年9月26日）オンライン開催

理事会において3名の採択候補者が承認され、採択候補が同様の研究課題で他の高額の研究助成に採択された場合は、補欠を繰り上げることが承認された。

4. 寄付・会員の状況

第7期は、個人、法人・団体からの寄付、法人会員年会費、及び微生物コンソーシアム年会費として総額122,671,815円を受領した。寄付の状況、及び毎月の収支については、理事長及び常勤理事と事務局の週次打合せにおいて報告を行った。

第7期の寄付、会員の状況は表4の通り。

表4. 寄付及び会費の状況

種類	個人	法人・団体	計
一般寄付金	13,541,815円 (315件)	8,730,000円 (15件)	22,271,815円
特別寄付金 (使途指定)	20,000,000円 (2件)	27,500,000円 (6件)	47,500,000円
受取年会費	—	23,500,000円 (19件)	23,500,000円
微生物コンソーシアム年会費	—	29,400,000円 (14件)	29,400,000円
計	33,541,815円	89,130,000円	122,671,815円

5. 広報活動

財団ホームページに事業内容、イベントの案内、またその報告を適宜掲載し、2023

年8月と2024年1月には財団の支援者に財団の活動の様子を知らせるニュースレターを送付した。

「X」(旧 Twitter)にてイベントや理事長の活動、また研究者会員の最新研究について17回の投稿を行った。

2020年の三井住友銀行との「遺言信託業務の紹介に関する協定」締結に加え、READYFOR株式会社と提携し、遺贈寄付受入れの窓口を増やした。

第8期研究助成の公募の案内について関連学会に連絡し、学会ホームページへの掲載及び学会からの案内送付を依頼した。研究助成の応募者へのアンケートで当財団の研究助成を知ったきっかけとして「学会からの案内」との回答は回答全体の16.9%であった。

財団パンフレットを寄付の呼びかけに特化してデザインされた郵便振込書付きのチラシに変更した。第8期のイベントのDMから新しいパンフレットを利用する。

以上